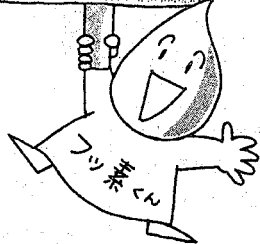


フッ素について本当のことを知りたい

フッ素の安全性、有効性については保護者の方々が特に心配される点ですが、フッ素は自然の中にある必須栄養素であり、私たちが食べる食物の中に必ずといっていいほど含まれています。また現在では多くの歯みがき剤にも含まれており、世界で約5億人の人が日常的に利用しています。

むし歯予防のためのフッ素利用については、学問的にすでに安全性、有効性が十分確立されており、WHO（世界保健機構）をはじめとする各種専門機関、専門団体が推奨しています。

フッ素は
自然環境物質
です。



●フッ素とはどこにでもある
自然環境物質です。

数値はフッ素の含有量を示
しています。（単位：ppm）



砂糖 :	1.7~5.6	海老 :	49	大根 :	0.7~1.9
味噌 :	0.9~11.7	貝 :	1.5~1.7	人参 :	0.5
塩 :	25.9	イワシ :	8.0~19.2	じゃがいも :	0.8~2.8
緑茶(抽出液) :	0.1~0.7	海草 :	2.3~14.3	りんご :	0.2~0.8
紅茶(抽出液) :	0.5~1.0			みかん :	0.1~0.3
ビール :	0.8			牛肉 :	2.0
信濃川 : 平均	0.1~0.2	海 : 平均	1.3	地中 : 平均	280

フッ素とは

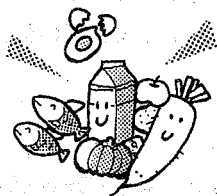
フッ素の効果

- フッ素は歯の表面に作用して
むし歯菌のつくる酸に溶け
くい歯をつくります。
- フッ素は酸の産生を抑えます。
- フッ素は抗菌作用があります。



むし歯になり
かけた歯が
元に戻ります

（再石灰化）



世界の専門機関がすすめるフッ素利用

世界中で150以上の科学や健康に関する専門団体がフッ素利用を推奨しています。

- 世界保健機関(WHO)
- 国際歯科連盟(FDI)
- 食糧農業機関(FAO)
- 国際歯学研究会(IADR)
- 国際栄養学会
- 英国王立医学協会
- 欧州う蝕研究学会(ORCA)
- 米国食糧栄養庁
- 米国全国科学アカデミー
- 米国国立歯学研究所(NIDR)
- 米国食品医薬品局(FDA)
- 米国医師会
- 厚生省
- 文部省
- 日本口腔衛生学会
- 日本小児歯科学会
- 日本学校歯科医会
- 日本歯科医師会、米国歯科医師会をはじめ
世界93ヶ国の歯科医師会('84 FDI) など